このお話はおむつ女児になるためのマニュアルを
実践した、ある男の娘の幼児退行記録です。

今回マニュアルを実践してくれたのは
『相田めぐむ』君。
身長１４９ｃｍと１９歳の男性としては
かなり小さめの身長で、よく小学生に
間違えられてるみたいです。
そんなめぐむ君が１９歳になり、一人暮らしを
始めたタイミングで自分の好きなおむつや女児服を
堪能しようとしてるみたいです。

それではおむつ女児マニュアルと一緒に
めぐむ君の幼児退行記録を見ていきましょう。

おむつ女児化マニュアル
【入門編　その①】
～女児服を用意しよう～

まず改めて被験者の紹介から参りましょう。
名前　相田めぐむ
身長１４９ｃｍ　体重３７ｋｇ
とても成人を迎える男性の体型としては思えない
とても小さな体型ですね。

顔つきも非常に童顔で、まるで小学生の
女の子のようですね。
何やら顔を赤らめているようですが
何かあったのでしょうか？

「ふう。やっと届いた・・・」
めぐむ君は何かが家に届くのを
待ちわびていたようです。

どうやらネット通販で女児服を買ったようです。
女児服が好きなめぐむ君も店舗に出向いて
女児服を買うのはさすがに抵抗があったようですね。

では実際にめぐむ君が購入した女児服を
見て行きましょう。
トップスはフリルをあしらったオフショルダー。

普段着ることの無い肩出しデザインと
可愛らしいフリルがより一層女の子らしさを
感じさせます。

続いてはスカートです。
めぐむ君はジャンパースカートを選んだようです。
フリルがついたハートのアップリケに
可愛らしいリボンが付いていますね。

女児服とは言っても小〇生用のサイズなので
体の小さいめぐむ君でもさすがに小さめの様です。
どうやらおむつも穿いているようですが
また後ほど見ていきましょう。

続いてはソックスです。
小〇生女児らしいハート柄にリボンの付いた
ニーハイソックスを選んだみたいですね。

こちらのニーハイソックスも女児服の
定番アイテムなのでめぐむ君と同じように女児服を
買われる方は必ず用意しておきましょう。

それでは全身コーデを見ていきましょう
女児服を選ぶ時のポイントは
①カラフルで女の子らしいパステルカラーを選ぶこと
②ボトムスは必ずスカートにすること
③サイズは小さめがおすすめ
以上のポイントを押さえればあなたも
おむつ女児になるための準備は万端です。

めぐむ君のコーデはしっかりとポイントを押さえて
いますね。特にジャンパースカートの丈が短く、
おむつがチラ見えしているのは好ポイントです。
おむつが自力で隠せない状態は幼児っぽさが出て
羞恥心をとても刺激するのでおすすめです。

おむつ女児化マニュアル
【入門編　その②】
～立ったままおむつにおもらししてみよう～

おむつ女児になることはすなわち、
おむつが取れない体にならないといけません。
入門編その②では、おもらしからおねしょが
できるようになるまでの方法をめぐむ君と一緒に
学んでいきましょう。

まずおむつにおもらしをしてみましょう。
と言っても、当然ですがおむつにおしっこをすることに
体が慣れていないため最初は難しいと思います。
めぐむ君も初めてのおむつおもらしには
抵抗があるようでなかなかおもらしができないようです。

「んっ・・・なかなか出ないよう・・・」
めぐむ君はおもらしをする為にたくさん水を飲んだので
膀胱は既にパンパンです。ですが初めてのおもらしに
不安と緊張が重なって無意識に力んでしまって
いるようです。

力んでしまってはおしっこも出てきません。
いったん心を落ち着かせて再度挑戦してみましょう。
普段トイレでおしっこをすると同じように
脱力してみましょう。すると自然におしっこが
出てきます。

プルプルと体を小刻みに震わせてまるで小〇生が
おもらししてしまう時のような仕草を見せるめぐむ君。
女児服とおむつを着用しただけで心まで
幼くなってしまっているようです。

「あっ・・・出てきそうっ・・・」
どうやらうまく脱力できてきたのか、
だんだんおむつにおしっこをする感覚を
掴んできたようです。

「あっ・・・あっ出るっ・・・・！」

ぷしゅ～ぷっ！♡

溜まっていたおしっこは出始めると勢いよく出て
あっという間におむつをタプタプに濡らして
しまいました。

おしっこの温もりがじんわりと股間を包んで行く感覚に
とてつもない快感を感じているようです。

「本当におもらししちゃった・・・。
僕、男なのにかわいいお洋服着て、おむつ履いて、
おもらししちゃったんだ・・・。」

普段の生活では味わうことのできなかったおむつの感覚と
本来、性的な目的では使わない女〇服を着て、
いけないことをしてしまった背徳感は
男の娘であるめぐむ君の自尊心を奪っていきます。

この後もめぐむ君は恍惚とした表情で
おむつを何度も触っておもらしおむつの感触を
味わっていました。

マニュアルの最初の手順であるのにもかかわらず、
早くもおむつ女児としての才能を見せてくれためぐむ君。
次はどんな姿を見せてくれるのでしょうか？

おむつ女児化マニュアル
【入門編　その③】

～寝た体勢でおもらししてみよう～

次のステップは寝た体勢でのおもらしです。
寝た体勢でのおもらし癖をつけるトレーニングです。
寝た体勢でおしっこをすることによって
おねしょと同じ感覚を体に覚えさせることが
できます。

また、おむつにおもらしする事に慣れてきたら
おしっこをする際は必ずベッドに入り、寝た体勢で
するようにしましょう。こうすることで
「ベッドはおしっこをする場所」と脳が認識し、
自然におねしょをする体に変わっていきます。

寝た体勢で自然におもらしができるようになれば
おねしょ体質にグッと近づくでしょう。
寝た体勢でのおもらしはおむつ女児化マニュアルの
中でもかなり重要なステップになります。

当然焦りは禁物です。焦ってしまっては、
おしっこも出てきませんからね。
じっくりと体を慣らしていきましょう

さあ、それではめぐむ君を観察していきましょう。
さすがに仰向けでのおもらしは抵抗があるようで
表情にも不安が見えますね。

夜になるといつも抱いて寝ている
くまのぬいぐるみをぎゅっと強く抱いていますね。
まるで小学生、いや幼稚園児の女の子の様な
仕草ですね。

次に服装を見ていきましょう。
今度はパープルのパフスリーブのトップスに
可愛らしいピンクの裾にフリルがあしらってある
ジャンパースカートを着用しています。

サイズはやはり小さ目で、おむつは完全に
露わになっています。
女児服でスカートを選ぶ場合はやはり、
めぐむ君のようにサイズは小さめが良いでしょう。
女児っぽさが出ることによって、より恥ずかしさが
増します。

「う～ん。おしっこはしたいのに、
なかなか出ないなぁ・・・」

既ににめぐむ君の膀胱にはたっぷりおしっこが
溜まっているいるようですが、
慣れない体勢のせいか、少し力んで
しまっているようです。

決して力んで無理やりおしっこをしてはいけません。
おねしょをするには完全に体がリラックスして
いなければいけません。

焦らずゆっくりと、おしっこをする感覚に集中し、
おしっこが出てくるのを待ちましょう。

「あっ・・・もうすぐ出そう・・・」

だんだんめぐむ君もリラックスしてきたようですね。
おしっこがおちんちんの先っちょまで来たら
力を抜いて一気に出してしまいましょう。

「やぁっ・・・でっ出るっ・・・・！」

しゅわわわ

「あ・・・おねしょしちゃった時と同じ感覚・・・」
おしっこの温かい感触がおなかの方を伝う感覚。
幼い頃にに味わったおねしょの感覚が再び
めぐむ君のなかで蘇ったようです。

最初は横漏れなどが怖くなりおもらしをするのに
抵抗が出てしまうことがあると思いますが、
気にせず一気におしっこを出してしまいましょう。
おねしょシーツを敷いておくと漏れても安心なので
必ず買うようにしましょう。

さて、寝た体勢でのおもらしに成功したら
次のステップです。
次は寝起きの状態でおもらしをしましょう。

寝起きの状態で起き上がらずにそのままの体勢で
おもらしをしましょう。
寝起きでおもらしをすることでおねしょと非常に
近い状態を作ることができます。

寝起きで頭がぼんやりした状態でおもらしを
するのが良いでしょう。そうすることで
おもらしをした時の記憶が曖昧になります。

目覚めて頭がしっかりと働く頃には、
おむつが濡れている原因が故意による「おもらし」
なのか、無意識による「おねしょ」なのか区別が
付かなくなるでしょう。

ぼんやりとした意識の中で力を抜いて躊躇なく
おもらししてしまいましょう。おそらく寝起きの時は
おしっこがたくさん溜まっているので、
おしっこの量の多さにより横漏れする危険性が
あります。

横漏れすると焦って即座におもらしを
躊躇してしまうので、横漏れしても大丈夫なように
必ずおねしょシーツを敷くようにしましょう。

さあ、めぐむ君もすでに溜まったおしっこに
限界のようです。

このマニュアルを読んでいるそこのあなたも
めぐむ君と一緒におむつにおもらししして
しまいましょう。

しゅわわわ

めぐむ君はおむつをパンパンに膨らませるほどの
たくさんのおもらしができたようですね。
さあ、あなたもおむつにおもらしできましたか？

本来、おねしょやおもらしをすることと言うのは
『いけないこと』と認識されていますが、
ここではむしろ褒められる事です。
『よくできました』とおもらしした自分を
褒めてあげましょう。

そして、自分にこう言い聞かせましょう。
『私はまだ、おむつの取れない女の子です』と。
頭の中で何度も唱えて、本当に自分が、
「おむつの取れない女の子」ということを
自覚させましょう。

声に出してみるのもいいでしょう。
自覚が強く芽生え、自尊心が無くなって行くのが
実感できることでしょう。

さあ、寝た体勢でのおもらし、寝起きでのおもらしが
出来たらこれを毎日続けていきましょう。
寝た体勢でのおもらしはおむつ女児化への一番の
近道ですのでしっかり毎日やるようにしましょう。

個人差はありますが、早ければ2週間、
遅くても3か月経過する頃には、自然とおねしょが
出来るようになっていることでしょう。

おむつ女児化マニュアル
【入門編　その④】

～外出時もおむつを穿きましょう～

今回のステップは「外出時もおむつを穿きましょう」
ということで、めぐむ君はおむつを穿いて
外出しているようです。顔を赤らめて、歩き方も
少しぎこちないように見えます。それもそのはず、
おむつの厚みでズボンが少し膨らんでしまっています。

股にはおむつの吸収体のもことした感触、
歩いているときにはおむつと衣服が擦れカサカサと
小さな音も出てます。めぐむ君はおむつを穿いている
ことが通行人にバレてしまわないかドキドキして
いるようです。

おむつ女児化マニュアルでは下着は常に
おむつでなければなりません。尿意を感じたらすぐ
おむつにおもらしができるようにいつでも
準備しておく事が大切です。

外出するからと言っておむつを外していては
おむつ女児への道は遠くなってしまうことでしょう。
もし、外出先で着替えをする事があり、
おむつを穿いている事がバレるのが嫌だという人は
おむつの上からパンツを穿いて隠して下さい。

さて、めぐむ君もそろそろ尿意が近づいてきた
ようです。少し内股になりながらモジモジしています。
脚運びもゆっくりとしてきてもう我慢できそうに
ありませんね。さあここでポイントがあります。
皆さんも同じシチュエーションになった時、
注意しなければいけないことがあります。

それは、ほかにも通行人がたくさんいるからと言って
トイレに行ったり、物陰に隠れておもらしすることです。
おむつ女児化マニュアルでは
『尿意を感じたらおむつにおしっこする』
これが鉄則です。尿意を感じた瞬間に
躊躇せず、おしっこを出してしまいましょう。

ああっダメっ
もう漏れちゃう・・・！

じょわわっ

人前にもかかわらず、めぐむ君はしっかりと
おもらしすることができたようです。
人前でおもらしする背徳感が想像以上だったのか、
めぐむ君は興奮が冷めないようです。

さあ、あなたはどうでしたか？
きちんと外でおもらしできましたか？
外出先でのおむつ穿いてのおもらしは、
緊張、背徳感、羞恥心、いろんな感情が混じり合うので
今まで味わったことのない興奮が待っていること
でしょう。

おむつ女児化マニュアル
【入門編　その⑤】
～おまるを使ってみよう～

続いてのステップは「おまるを使ってみよう」です。
ですが、今回のステップは言わば「番外編」です。
何故かと言うと、おむつ女児化マニュアルでは基本、
おむつ以外でのおしっこは禁止だからです。

おまるにおしっこをする、と言う行為は
普通におしっこをする行為と似ているので連続で
行うことはあまりお勧めできません。
ですが、「たまに使う分」には非常に効果があります。

おむつ生活を続けていると、最初の3、4日ぐらいは
毎日おむつを穿いて、楽しむ事ができると思います。
しかし、だんだんモチベーションが続かなくなる
日が来ると思います。

と言うのも、モチベーションが続かないのは、
人間としては至極当然なことなのです。
人間は新しいことを始めようとすると脳が嫌がり、
拒否しようとするのです。

例を挙げるとすれば、ダイエットが良い例でしょう。
ダイエットを始めようとする人は大半が短期間で
失敗し、いわゆる「3日坊主」状態になって
しまうことから分かるようにおむつ生活でも
同じことが起こってしまうのです。
ではどうすればよいのか？

答えは「おむつにおしっこをするより簡単、なおかつ
おむつ女児気分が味わえる行為」をすればよいのです。
その行為におまるにおしっこがピッタリなわけです。
おむつおもらしにはおむつを穿き替えたり
おねしょシーツを敷いたりなど多少の手間が必要ですが
おまるならいつも通りおしっこをするだけなので
非常に簡単です。

今日はめぐむ君も珍しいことに、おむつ生活に
気が乗らないようですので、おまるを使うみたいです。
しばらくの間おむつにおもらしをしていたせいか、
おむつ無しでのおしっこに違和感を
感じているようです。

長さ４ｃｍにも満たさなそうな、小さいおちんちんが
可愛らしいですね。陰毛もすべて剃っており、
赤ちゃんのようなつるつるおちんちんです。
当然ですが、このマニュアルを見ているあなたも
めぐむ君のようにおちんちんの毛はすべて無くして
つるつるおちんちんにしましょう。

おまるに跨ると強制的に股を開いた状態になるので
おちんちんが隠せない状態になるので羞恥心を
感じることができるでしょう。
さらに、トイレではない場所でおしっこをする
という行為に強烈な背徳感を感じることでしょう。

そして、改めて気づかされるでしょう。
自分が「トイレでおしっこできない女の子」だと言う
ことを。大きくなったのにトイレでおしっこ
できないから、まだおまるでトイレトレーニング
しているダメな女の子だと言うことを。

『あれ・・・?おしっこってどうやってするんだっけ?』
めぐむ君はおむつにおしっこをし続けた結果、
おしっこの仕方を忘れてしまう段階まで来ている
ようです。あなたも赤ちゃんのように無意識に
おむつにおしっこをすることを続けていけば
いずれめぐむ君のようにおしっこの仕方が
分からなくなることでしょう

『おなかに力を入れるんだっけ?抜くんだっけ?』
尿意はかすかに感じるものの、混乱しているめぐむ君は
おまるに跨ってからおしっこをできずに既に数分が
経過しようとしています。
一旦、めぐむ君はおしっこを諦めようとしました
すると次の瞬間・・・

『あれ・・・?おしっこってどうやってするんだっけ?』
めぐむ君はおむつにおしっこをし続けた結果、
おしっこの仕方を忘れてしまう段階まで来ている
ようです。あなたも赤ちゃんのように無意識に
おむつにおしっこをすることを続けていけば
いずれめぐむ君のようにおしっこの仕方が
分からなくなることでしょう

『おなかに力を入れるんだっけ?抜くんだっけ?』
尿意はかすかに感じるものの、混乱しているめぐむ君は
おまるに跨ってからおしっこをできずに既に数分が
経過しようとしています。
一旦、めぐむ君はおしっこを諦めようとしました
すると次の瞬間・・・

ションベンママ♡

めぐむ君の意志と反し、おしっこが勢いよく
出てしまいました。さすがに焦っためぐむ君は
おしっこを止めようとしますが、一度出てしまった
おしっこを止めるのは難しく、ぷしゃあああっと
恥ずかしぐらいの音を立てながら出ていきます。

おしっこが止まらない焦りと同時に
「もうおむつ無しではおしっこできない」と言う不安が
めぐむ君の頭に完全に刷り込まれたことでしょう。

不安が駆け巡っても怖がらなくて大丈夫です。
なぜならもうあなたは「おむつ女児」なのですから。
おまるでおしっこなんて当然できるはずがありません。

おむつはずれをするために、子供がママと一緒に
一生懸命トイレトレーニングして、
初めておまるでおしっこできるようになるのに、
毎日おむつにおもらししてるあなたがうまく
おしっこできるはずがありません。

もうこれで自分が本当に「おむつ女児」だということを
自覚できましたね。きっとめぐむ君もこれからは
おむつが完全に手放せなくなったでしょう。

さあ、ここまで来れば、身体がおむつ女児に
なったわけですが、おむつ女児化マニュアルは
ここで終わりではありません。
ここまではあくまで「入門編」です。
次のステップは「上級編」です。
楽しみにしておいてくださいね。

おむつ女児化マニュアル
【上級編　その①】
～女児服を着て外出をしてみよう～

続いてのステップはついに上級編です。
ここまでステップをこなしてきたあなたはすでに
「おむつ女児」として立派な状態であることでしょう。
この上級編で、さらにおむつ女児としての自分を
磨き上げましょう。

上級編その①は女児服で外出をしてみましょう。
めぐむ君もついに女児服を着てお出かけをしている
みたいです。さすがに今までとは桁違いの不安と
緊張を感じているのかキョロキョロと辺りを
見回しています。

今回もかわいらしい女児服を着ていますね。
小さな女の子らしいパフスリーブのTシャツに
水色のジャンパースカート、ピンクボーダー柄の
ニーハイソックス、すべて小〇生の女子が
着ていそうなファッションですね。

おむつもちゃんと穿いており、スカートから見えて
しまっているのが、赤ちゃんらしくて可愛らしいです。
めぐむ君もだいぶ女児服ファッションが板について
着たようですね。

外出をして数分経ったようですが、めぐむ君は
まだ、誰ともすれ違っていないようです。
人通りの少ない時間・場所を選んだようで
めぐむ君に気が付いている人はいないようです。

ところが、後ろで誰かめぐむ君に気づいた様です。
下校中の小〇生でしょうか？まだ遠くにいるようで、
不思議そうにこちらを見つめています。
すると、その少女は何かに気づいたようで、
めぐむ君のそばまで駆け寄って来ました。

「あれ？もしかしてめぐむ君？」
駆け寄ってきた少女は、なんとめぐむ君のアパートの
隣に住む小〇生の女の子「さつきちゃん」だったのです。
家が隣な為、当然面識があり、地域活動などにも
一緒に参加していたこともあったため、
めぐむ君にとっては仲の良い妹的存在の女の子です。

めぐむ君はいきなり声を掛けられたせいで、
慌ててしまい、「あの、その、」と、まともに
返答することができません。
間髪入れずにさつきちゃんは
「本当にめぐむ君だよね？」
と追い打ちをかけるように聞き返します。

気が動転してしまっためぐむ君は否定もできずに、
口をぱくぱく動かすだけしかできません。
「こんな格好で何してるの？めぐむ君」
めぐむ君もう駄目だと感じたのか、ようやく絞り出した
声は正直な言葉しか出せませんでした。

「あの・・・このことは誰にも言わないで・・・」
泣きそうな声でめぐむ君はさつきちゃんに
お願いをしましたが、そのお願いを聞いた途端、
さつきちゃんは悪いことを思いついたのか
意地悪な笑みを浮かべました。

「え～？どうしよっかなあ～」
慌てるめぐむ君の姿をからかいながらさつきちゃんは
「じゃあ、ほかの人にバラしたくなかったら・・・
そうだっ。これから私の家に来てよ」

バラされたくない恐怖からめぐむ君は「うん」としか
言えませんでした。とりあえずバラされないと
安心したせいか、途端にめぐむ君に尿意が
襲ってきました。既にめぐむ君は尿意を感じると
おしっこを我慢できない身体になっており、
必死に我慢しようとしましたが・・・

ぶるっ
ぽしゃあぁ♥

「ちょ、ちょっと！めぐむ君！？」
めぐむ君は必死におしっこを止めようとしましたが、
当然おしっこは止まらず、どんどんおむつを膨らませて
いきます。さつきちゃんもでめぐむ君がおもらしをした
ことに一瞬で気付きました。

「や、やだぁ・・・見ないでぇ・・・」
どうやってもおしっこを止めることができず、
あまりの恥ずかしさに泣いてしまうめぐむ君。
さすがの事態にさつきちゃんも焦り、
とりあえずこの場から移動することにしました。

「めぐむ君！とりあえずこっちに来て！」
さつきちゃんに手を引かれ、泣きながらめぐむ君は
付いていくしかありませんでした。
さあ、めぐむ君にとっては思いもよらぬハプニングが
起きてしまいましたが、むしろこのシチュエーションは
おむつ女児化マニュアルからすると好都合です。

今回のステップ「上級編その①」では女児服を着て
外出する、ということが目的です。
そして「上級編その②」では、パートナーがいないと
できないステップになっています。
つまり、上級編その①では外出時に誰かと
遭遇することが前提で作られています。

みなさんもめぐむ君のように女児服を着て外出し、
誰かにその姿を見られてしまいましょう。
そして、あなたのおむつ女児化を手伝ってくれる
パートナーを見つけましょう。
できれば年下の女の子が良いでしょう。

自分より年下の子におむつを替えられ、自分の感情を
恥ずかしい気持ちで満たしましょう。
「あんなに小さい子でもパンツなのに自分は
おむつなんだ・・・」と情けない感情でいっぱいに
しましょう。いつしか自分が男の子であるという
自覚が持てなくなり、おむつ女児としての人格が
芽生えることでしょう。

おむつ女児化マニュアル
【上級編　その②】
～パートナーにお着替えを手伝ってもらいましょう～

「大丈夫？ちゃんと立ってられる？私の肩に
捕まって大丈夫だからね」
さつきちゃんが優しい声でめぐむ君に声を掛けています。
さつきちゃんはおもらしをしてしまっためぐむ君を
どうやら自分の部屋に連れてきたようです。

「あらあら、こんなにおもらししちゃって。
おしっこいっぱい我慢しちゃったのかな？」
まるで泣いた子供をあやすかのようにめぐむ君を
落ち着かせながらおもらしをしたおむつを
替えているようです。

「ほら、見て。こんなにおむつたぷたぷよ。」
「ご、ごめんなさい」
さつきちゃんの言葉に何と言っていいか分からず、
咄嗟に謝ってしまうめぐむ君。まるでおねしょを
してしまった子供が親に謝っている様ですね。

「おしっこでお洋服もちょっと濡れちゃったからね。
早くお着替えしちゃいましょ。」
手慣れた様子でてきぱきと服を脱がしていく
さつきちゃん。めぐむ君もこの状況ではされるがままに
なっています。
「さ、おむつ脱がすからね」

「あら。かわいいおちんちんね。めぐむくんって
こんなにおちんちん小さかったんだ。
これじゃあ弟と変わらないわ。」
まじまじとおちんちんを見つめられ、赤面するめぐむ君。
「やっ・・・見ちゃだめ・・・」
少し足を動かしておちんちんを隠そうとするも

「あっ、こら。動いたら転んじゃうでしょ。」
少し強い口調でさつきちゃんが怒言うと、めぐむ君は
子供のようにしゅんとすぐにおとなしくなって
しまいました。
「こんなちっちゃい子供おちんちんじゃ、おもらししても
しょうがないわね」

「でも、まさかめぐむ君にこんな趣味があるとは
びっくりしたわ。女の子の格好して、しかもおむつまで
履いちゃって。そんなに女の子になりたかったのかしら？」
その言葉が図星すぎて何も言い返せないめぐむ君。
少し沈黙が続くとさつきちゃんは

「うふふ。本当みたいね。でも大丈夫よ。これからは
本当の女の子として接してあげるから。私の妹みたいに
接してあげる。」
めぐむ君はずっと年下の女の子に「妹」と言われ、
我に返ったのか、さすがに抵抗があったようで
「でも僕、さつきちゃんより年上だし身体も大きいし、
さすがに妹は・・・」と弱弱しく反論すると

「なに言ってるの。おねしょだけならまだしも、昼間の
おむつも取れない子が私より年上なんてどう考えたって
おかしいでしょ。」
めぐむ君は、何か言い返そうと小声で「だって・・・」
と言いかけたところで、さつきちゃんは遮るように
言いました。

「口答えするならおむつ替えてあげないからね。
このままおちんちん丸出しのままでいなさい。」
怒った口調にめぐむ君は
「ご、ごめん、さつきちゃん。ぼ、僕、妹でいいから、
だからおむつ替えて・・・。」
今にも泣きだしそうな声でお願いしました。

するとさつきちゃんは怒った表情から意地悪な笑顔に戻り、
「うふふ。分かったわ。じゃあ妹ならちゃんと
お願いできるわよね？『さつきおねえちゃん。
おもらししちゃったからおむつ替えて』って。」

めぐむ君は諦めたように言いました。
「さつきお姉ちゃん。おもらししちゃったから
おむつ替えてください。」
「うふふ、よく言えました。めぐむちゃん。じゃあおむつ
穿かせてあげるわ。ほらおむつにあんよ入れて。」
さつきちゃんは満足そうに笑みを浮かべめぐむ君の
おむつを替えてあげました。

さあ、みなさんもめぐむ君のようにパートナーに
お着替えを手伝ってもらいましょう。
あなたはおむつの取れない女の子です。お着替えだって
一人できなくて当然です。
お着替え中にあなたの小さなおちんちんが見られて
しまいますが、仕方ありません。

おむつを穿かせてもらう瞬間にもきっと切なくて、
恥ずかしい気持ちが芽生えるでしょう。
「お着替えも一人でできない子になっちゃったんだ」
と恥ずかしくなるでしょう。
その恥ずかしい気持ちが自分をおむつ女児に
近づけてくれるでしょう。

おむつ女児化マニュアル
【上級編　その③】
～一緒にお買い物に行きましょう～

続いてのステップはパートナーと一緒におむつを
買いに行ってもらいます。
このステップまでマニュアルをクリアしてきたあなたは、
もうすでに「おむつの取れない女の子」です。
当然ですが、一人でおむつを替えることもできませんし、
おむつを買いに出掛けることなどできるはずもありません。

・・・・・
なのでお姉ちゃんにお買い物に連れて行ってもらい、
自分が使うおむつを一緒に選びましょう。
お姉ちゃんならきっと、あなたにぴったり合うおむつを
選んでくれると思います。
めぐむ君もさつきちゃんと一緒にドラッグストアへ
来たようです。二人はどのようにしておむつを
選ぶのでしょうか。

「いらっしゃいませー」
明るい女性の声が店内から聞こえてきます。
「えっと、子供用おむつはどこかな・・・」
キョロキョロと辺りを見回しながらさつきちゃんは
ベビー用品コーナーを探しています。

何かを探している様子のさつきちゃんに一人の
女性店員が気づき、声を掛けました。
「何かお探しでしょうか？」
「子供用のおむつを探しているんですけど・・・」
「子供用のおむつならあちらにございますよ。
ご案内しますね。」

「こちらがベビー用品コーナーになります。」
「ありがとうございます。店員さん。
へ～。おむつって今こんなに種類があるんだ。」
ベビー用品コーナーには乳幼児用から小学生用まで
たくさんのおむつが並んでいました。

「う～ん。いっぱいあるとどれにすればいいか
迷っちゃうわ。」
子供用おむつだけでも5社以上のメーカーがあり、
サイズもそれぞれ違うおむつが並んでいました。
「ちなみにどのようなおむつをお探しですか？」
「小学生でも、穿けるような大きめのサイズの
子供用おむつってありますか？」

「小学生でも入るサイズ、ですね。それでしたらこちらの
ウルトラビッグというサイズはいかがでしょうか？」
女性店員が勧めてきたのは、子供用おむつの中で
一番大きいサイズのものでした。適正体重が
２５ｋｇ～４０ｋｇと小学校高学年の子供でも
穿けそうなサイズです。

「こちらなら小学生のお子様にでも穿けるサイズですし、
おねしょも二回分吸収できるんですよ。」
「へ～！二回分も吸収しちゃうなんてすごいですね。
あ、しかもこれ、柄が可愛いですね。」
さつきちゃんが手にしたのはウルトラビッグサイズの
女の子用と書かれたおむつでした。

そのおむつのパッケージには女子小学生と思われる
少女がおむつを穿いて自慢げな笑顔をしていました。
デザインかわいらしい花柄やお姫様柄など、
いかにも女子小学生が好みそうなカラフルなデザインで
作られていました。
「これならお客様にもピッタリだと思いますよ。」

女性店員はどうやら、さつきちゃんがおむつを
穿くと思っていたようでした。
それに気づいたさつきちゃんは後ろで少し隠れるように
立っていためぐむ君を呼びました。
「店員さん、違いますよ。おむつが必要なのは
私じゃなくてこの子です。ほら、めぐむちゃん。」

さつきちゃんが半ば強引にめぐむ君の手を引き、
女性店員の前に連れてきます。
「ちょ、ちょっとさつきちゃんっ」
めぐむ君はいつも以上に恥ずかしそうな素振りをして、
少し抵抗しているようです。それもそのはず、
ドラッグストアにいた女性店員はめぐむ君と同じ大学に
通っていた同級生の女の子、「あかり」ちゃんでした。

(やだ・・・こんなところあかりちゃんに見られたら
恥ずかしくて死んじゃう・・・)
あかりちゃんもすぐにに気づき、驚いた様子で
めぐむ君に声を掛けました。
「あ、あれ?もしかしてめぐむ君?どうしたのこんな
格好して。」
「こっこれはっ・・・違うの!」

必死に言い訳を考えようとしためぐむ君でしたが、
焦りと恥ずかしさで何も言葉が出ずに、ただ口を
パクパクと動かす事しかできませんでした。
困った様子のめぐむ君を見て何かを察したのか、
あかりちゃんは、店員として接してきました。

「こちらのお客様がおむつを使われると言うことで
よろしいでしょうか？」
「そうなんです。この子、おねしょがひどいみたいで、
毎日してる見たいです。しかも最近はおねしょ
だけじゃなくて昼間もおもらししちゃうんです。
だからいつもおむつ穿かせてるんです。ほら。」

さつきちゃんはめぐむ君のジャンパースカートを
捲り上げました。
「きゃっ、ちょ、ちょっと！」
めぐむくんは、まるでスカートを捲られた女の子の
ような反応をして必死にスカートを押さえましたが、
可愛らしいリボン柄のおむつがあかりちゃんに
見えてしまいました。

「ね、この子、本当におむつ穿いてるでしょ。」
「失礼致しました。こちらのお客様のおむつを
お探しだったんですね。」
あかりちゃんもめぐむ君がおむつまでしていることに
かなり驚いたようですが、まじめな性格の
あかりちゃんは、めぐむ君に合うおむつを
探してきてくれました。

「こちらのおむつは子供用なのですが、サイズも大きいですし、おしっこすると濡れた感触がするようになっています。おむつ離れを目指すお子様が、おむつが濡れた感触に気が付きやすいように作られているんですよ。」
あかりちゃんの持ってきたおむつのパッケージには『トイレトレーニング用』と書いてありました。

「へ〜！トレーニング用なんてあるなんて知らなかったわ。昼間のおむつも取れないめぐむちゃんにはぴったりだね。このおむつで一緒にトイレトレーニング頑張ろうね。」
めぐむ君が恥ずかしがるのを分かってわざとらしくさっきちゃんがそう言うと、あかりちゃんも笑顔でめぐむ君に話しかけました。
「めぐむ君。事情は分からないけど、おむつはずれできるように頑張ってね。」

めぐむ君は顔から火が出そうなほど恥ずかしかった
ようですが、小さく「うん」としか言えませんでした。
「ほら、めぐむちゃん。店員さんがめぐむちゃんの
おむつ探してくれたんだよ。ちゃんとお礼言いなさい」
「私の・・・使うおむつを探してくれてありがとう」
顔を真っ赤にしながらお礼を言うめぐむちゃんに、
あかりちゃんは優しく微笑みました。

さあ皆さんも恵くんのようにパートナーと一緒に
おむつを買いに行きましょう。必ず店員さんには
「自分が使うおむつ」だと言うことを伝えましょう。
子供用サイズでもあなたが穿けるおむつは必ずあります。
そして可愛らしい子供用おむつを選びましょう。
あなたの背格好でおむつを使う事に、店員さんは
好奇の目で見てくるかもしれませんが、仕方ありません。
あなたはおむつの取れない女の子なのですから。

おむつ女児化マニュアル
【上級編　その④】
～おむつを替えてもらいましょう～

このステップまで来たあなたは、
もう既に「おむつ女児」と言って良いでしょう。
おねしょは当然毎日のようにすると思いますし、
昼間のおむつですら外れなくなっていると思います。
この段階までくるとあなたの体は完全に
「赤ちゃん」と同等です。

つまり、おむつも自分で変えられません。
誰かにおむつを替えてもらう必要があります。
今回のステップはパートナーにおむつを変えてもらう
ステップになります。おむつを自分で替えられなく
なってしまっためぐむ君が、どのようにしておむつを
替えてもらっているか見ていきましょう。

「めぐむちゃん。起きてる？」
「う～ん。」
お昼寝をしていためぐむ君は、さつきちゃんが
部屋に入ってくる音でめぐむ君は目を覚ましました。
「めぐむちゃん、いっぱいおねんねしてたのよ。
おねしょは大丈夫かしら？」

めぐむ君はその言葉でやっと自分の下半身の不快感に
気付き、はっとしました。
「その様子だとおねしょしちゃったみたいね。どれどれ。」
さつきちゃんがめぐむ君のおむつを触ろうとすると、
めぐむ君は咄嗟に言い訳をしました。

「だ、大丈夫っ。ぼく、おねしょしてないから
おむつ替えなくていいよ。」
流石にめぐむ君も年下の女の子におむつ替えまで
してもらうのは恥ずかしいらしく、抵抗があるようです。
「本当におねしょしてないの？じゃあ、おむつ見せて
ごらんなさい。おねしょしてないなら見せられるわよね？」

そう言われるとめぐむ君は顔を真っ青にしました。
めぐむ君の穿いているおむつにはおしっこサインが
あり、おむつが濡れると黄色のサインが青色に変わります。
それに気づいためぐむ君はおむつを隠そうとしましたが、
時は既に遅し。おしっこサインが青くなっているのを
ばっちり見られてしまいました。

「あら、おしっこサインが青色になっているわよ。
おねしょしちゃってるじゃない。なんで嘘ついたの？」
「ごめんなさい・・・。おねしょしちゃったら
怒られるかと思って・・・。」
泣きそうなめぐむ君にさつきちゃんは母親のような
優しい口調で慰めました。

「おねしょしたからって別に怒らないわよ。だって
めぐむちゃんは、おむつの取れない赤ちゃんだもんね」
「赤ちゃん」という単語を言われても、おむつをしている
自分の今の姿では、何も反論はできませんでした。
むしろめぐむ君は自分が大学生である事すら
忘れかけている様でした。

「でもね、めぐむちゃん。嘘はいけないわよ。
おねしょしちゃったら、ちゃんと正直に言わなきゃ。」
「ごめんなさい・・・。」
「ほら、おむつ変えてほしい時はなんて言うんだっけ？」
「さっきお姉ちゃん、おねしょしちゃったから
めぐむのおむつ替えてくだしゃい。」

めぐむ君は心まで幼くなり始めている様で、
言葉遣いまで幼くなっている様でした。
「うふふ。よく言えました。じゃあおむつ替えて
あげるからね。ちゃんと良い子にしてるのよ？」
「うん・・・。」
さっきちゃんは、既に慣れた手つきでおむつの
サイドを破っておむつを広げました。

「わ～。いっぱい出まちたね～。何回おねしょしちゃったのかしら。おむつから溢れちゃいそうじゃない。」
めぐむ君のおむつは限界寸前までおしっこを吸収し、タプタプになっていました。
「こんなにおねしょするなんてよっぽどおしっこが我慢してたのかしら？ねんねする前にちゃんとおトイレ行ったの？」

「ううん、行ってないの。」
「なんでおトイレ行かなかったの？お姉ちゃんがいつも言ってるじゃない。ねんねする前にちっちしないとおねしょしちゃうよって。あ、もしかしておトイレが怖くて一人で行けなかったの？」

「ちっ違うの！おばけじゃなくて・・・ちっちが
出なかったの。」
めぐむ君の体はもうおしっこをする感覚すら忘れてしまい
トイレに行っても、おしっこは出てこない状態でした。
「あら、そうなの。おしっこの仕方も忘れちゃったのね。
もう完全にめぐむちゃん赤ちゃんになっちゃったわね。」

「でも大丈夫よ。これからは本当の赤ちゃんとして
・・・・・・・・
接してあげるから。」
「え？それって・・・。」
「赤ちゃんは細かいことは気にしなくていいのよ。
ほら、おむつぐしょぐしょで気持ち悪かったでしょ？
今フキフキしてあげるからね。」

さつきちゃんは赤ちゃんのお尻拭きを取り出して
めぐむ君の濡れた股間を丁寧に拭いていきます。
「いつ見てもちっちゃくてかわいい赤ちゃんおちんちんね。
前よりもちっちゃくなっちゃったんじゃない？
こんなおちんちんじゃあ、おねしょするのも
仕方ないわよね。」

そう言われてめぐむ君は恥ずかしい気持ちはあるものの、
濡れたおむつの不快感からの解放感で心地良さの方が
勝っていました。
「ほら。綺麗になったわ。じゃあ新しいおむつ
当てるからね。ほらお尻上げて。」
そう言うとさつきちゃんはいつもの紙おむつではなく、
可愛らしい柄の布を取り出しました。

さつきちゃんが取り出したのは紙おむつではなく、
布おむつでした。ピンク色に花柄のおむつカバーは
いかにも赤ちゃんが着けそうな可愛らしい
デザインでした。
「めぐむちゃん、最近おねしょの回数多いでしょ？
布おむつなら洗濯するだけだし、お金も安く済むから
今度からおうちでは布おむつを当てるからね。」

「うん・・・分かった。」（布おむつなんて、ほんとの
赤ちゃんみたいで恥ずかしいよ・・・。）
さつきちゃんは、めぐむ君がより赤ちゃんらしい
シルエットになるように、布おむつを多めに組みました。
「えっと、布おむつを組んだら、外羽を留めてと・・・
はい。おむつ替え終わり。どう？おなかはきつくない？
大丈夫？」

「うん、大丈夫。ありがと。さつきお姉ちゃん。」
初めての布おむつは紙おむつよりずっと柔らかで温かく、
優しく包まれる感触でした。その感覚にめぐむ君は
とても安心した気持ちになりました。
厚めに当てた布おむつのおかげで脚が閉じれなく
なってしまっためぐむ君の姿は赤ちゃんそのものでした。

「これでもうおねしょいっぱいしても安心だからね。
うふふ。こうしてみるとめぐむちゃん、本当の赤ちゃん
みたいよ。」
(どうしちゃったんだろう僕・・・。こんな赤ちゃん
みたいな格好にされて恥ずかしいはずなのに・・・
なんだかホッとして安心しちゃってる・・・。)

「よしよし。ちゃんと上手におむつ替えできたね。
あら?。めぐむちゃん、目がトロンとして
きちゃったわね。もうおねむの時間かしら?」
めぐむ君は完全に安心しきってしまい、今にも眠って
しまいそうでした。
「うん・・・。ぼく、ねんねすりゅ・・・。」

(ああ・・・。あったかくて、気持ちよくて、
すごく懐かしい感じがする・・・。もういっその事、
このまま赤ちゃんになっちゃった方が楽なのかな・・・?)
きっとぼくは最初からこうなりたいと・・・
思ってたんだ。だから・・・)

めぐむ君は自分のことを赤ちゃんだと認め始め、
自分が大学生であることをもう忘れかけているようです。
それもそのはず、今の自分の姿は完全に、
赤ちゃんそのものですから。
このステップまで来たあなたも自分が赤ちゃんで
あることを認め始めていることでしょう。

パートナーにどんなに赤ちゃん扱いされても
恥ずかしがることはありません。
おねしょして失敗してももう恥ずかしくありません。
もう一度自分の今の姿を見てみてください。
あなたはもう一人でおしっこすらできない
赤ちゃんなのですから。

おむつ女児化マニュアル
【上級編　その⑤】
～ベビー服で外にお出掛けしましょう～

ついにこのおむつ女児化マニュアルも最終ステップです。
最終ステップは「ベビー服でお出掛けしよう」です。
心も体も赤ちゃんになったあなたは外出する時も
１人では行けません。お出掛けする時はお姉さんに
連れて行ってもらいましょう。

もちろん、このステップの時点であなたは完全に
「赤ちゃん」です。なので、赤ちゃんらしくベビー服で
お出掛けけしましょう。
それでは、めぐむ君がどのようにお出掛けに連れて行って
もらっているか見て行きましょう。

「ん～！天気が良くて気持ち良い～」
今日は日曜日。雲一つなく晴れた良い天気に、
さつきちゃんはめぐむ君を連れてお出かけを
していました。
「お日様がポカポカしてて気持ち良いでしょ？
めぐむちゃんも久々のお出かけで嬉しそうね。」
「うん・・・。でもこのかっこは恥ずかしいよう・・・。

めぐむ君は赤ちゃんらしいフリルの付いたかわいらしい
デザインのベビー服を着させられていました。
さらにベビーカーにまで乗せられ、もう完全なる
赤ちゃん扱いをされていました。
心も赤ちゃん化しているめぐむ君ですが、外出となると
途端に自我が戻るのか、急に恥ずかしさが
襲ってきているようです。

「めぐむ君は赤ちゃんなんだから、ベビー服でも
何も恥ずかしい事なんてないよ。」
「そうよ。めぐむちゃん。それにこういうお天気の日には
お出かけするのが1番よ。」
今回はさっきちゃんだけでなく、めぐむ君の同級生の
あかりちゃんまで一緒に来ていました。

「めぐむ君は一応大学もあるからね。学校では私が
面倒見なくちゃいけないと思って今日来てみたの。」
同級生に今の赤ちゃんのような姿を見られ、
めぐむ君は恥ずかしさでいっぱいのようですが、
めぐむ君もこの状況に既に慣れ始め、むしろこの状況でも
あかりちゃんにお世話をしてもらえることに
安心感を覚えていました。

「ほら着いたわよ。」
小さな子供の元気な声が聞こえたと思うと、公園に
着いていました。公園にはさつきちゃんよりも
年下であろう幼い子供たちが楽しそうに遊んでいました。
さつきちゃんは子供たちを指差しながら言いました。
「ほら、めぐむちゃん。お兄ちゃんお姉ちゃん達、
おいかけっこして遊んでるね。」

「めぐむ君はちゃんとあんよが出来るようになったら
ベビーカー卒業だからね。」
自分よりずっと幼い子供たちが元気に遊んでいる中、
ベビーカーに乗せられ、眺める事しかできない自分の姿に、
恥ずかしさと情けなさで感情が溢れました。
するとめぐむ君が今までギリギリで保っていた理性が崩れ、
やがて公園で遊ぶ子供たちを羨ましそうに眺めながら
めぐむ君は思ってもない言葉を口にしました。

「あの子たちが僕よりお兄ちゃんおねえちゃんなの？
ほんとに？」
「当り前じゃない。だっておむつしてるめぐむちゃんが
あの子たちよりお兄さんお姉さんなわけないじゃない。
めぐむ君の方がちょっと体が大きいかもしれないけど、
赤ちゃんであることに変わりはないわ。」

遊んでいる子供達が自分より本当に年上だと
感じてしまうほど、めぐむ君の精神年齢は幼く
なっていました。
「大丈夫よ。めぐむちゃんだっていつかきっと、
あんよも上手になるだろうし、おむつ外れも
出来るようになるわ。」

するとそこへ遊んでいたこどもたちがこちらへ
駆け寄ってきました。
不思議そうにめぐむちゃんを見つめている子供たちに
さっきちゃんが話しかけました。
「こんにちは。この子はめぐむって言うの。
体はみんなより大きいんだけど、まだ一人でおしっこ
できなくてね。」

「へ〜。だからおっきいのにおむつしてるんだね。」
じゃあまだ赤ちゃんなんだね。だってママ言ってたもん。
おむつしてる子は赤ちゃんだって。」
「そうよ。だからみんなの方がお兄ちゃんおねえちゃん
なのよ。これから、遊ぶ事があったらこの子とも
仲良くしてね。」

「うん！わかった！私たちお兄ちゃんお姉ちゃんだから
仲良くできるよ！」
「うふふ。ありがとね。ほら。めぐむちゃん。
お兄ちゃんお姉ちゃんに挨拶できる？」
「うん・・・。めぐむとなかよくしてくれてありがと。」
「よろしくね！めぐむちゃん！」

そういうと子供たちは元気に走って、
また、おいかけっこで遊び始めました。
「うふふ。めぐむ君。お友達ができてうれしいね。
今度遊ぶ時にはあんよ出来たら一緒においかけっこして
遊べるわね。」
「そうなったらお靴も買わないとね。」

「お洋服もまだまだ少ないからいっぱい買わないとね。
可愛いお洋服たくさん買っちゃおうかしら。」
「お洋服はスカートが良さそうね。スカートなら
おむつも替えやすいし。」
「うふふ。そうだね。あんよはできても、おむつが
外れるのはまだしばらくかかりそうだもんね。」

「めぐむちゃんも早く遊びたいでしょ？
私たちもめぐむちゃんが早くあんよが出来るように
ちゃんと手伝ってあげるからね。」
「トイレトレーニングも一緒に手伝ってあげるからね。、
早くお姉さんパンツが穿けるようになると良いね」
「うん。さつきお姉ちゃんあかりお姉ちゃんありがと。
めぐむ頑張るね。」

「うふふ。ありがとうがちゃんと言えるなんて
偉いわめぐむちゃん。」
「よしよし。いい子ねめぐむ君。
これからもずっと可愛がってあげるからね。」

めぐむ君は赤ちゃん返りしました。もう普通の
大学生として生活をするのは難しいかも知れませんね。
さあ、皆さんもめぐむ君と同じようにベビー服で
外出しましょう。あなたは赤ちゃんなので
1人で歩けません。ベビーカーに乗せてもらって
赤ちゃん気分を存分に味わいましょう。

あなたがベビー服を着ていても、ベビーカーに
乗っていてもおかしな事ではありません。

だってあなたはもう「赤ちゃん」なのですから。